

: 中学保健体育科教育部会

I 研究の経過と概要

○東山梨地区保健体育科研究会のテーマについて

「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫～アクティブラーニングを活用して～」

中学保健体育部会では、基礎基本の定着を目指した授業の改善・工夫に視点をあて、個々の身体能力に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力や言語活動を育成すること。練習内容の工夫・改善をすることで生徒達により理解しやすく、基礎基本の習得をすることができるか。与えられた環境の中で有効な場を提供することから質の高い授業の展開が可能と考える。授業実践や研究会を通し、教師自身もより高い実践力を高める必要があると考え、「アクティブラーニングの活用」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて研究を行った。

○本レポートができるまでの具体的経過について

- H 2 8 . 4 平成 2 8 年度東山梨教協研究テーマの決定。「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫」～アクティブラーニングを活用して～
- H 2 8 . 5 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫についての討議
- H 2 8 . 6 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫についての討議
統一授業研実施内容の決定
- H 2 8 . 9 統一授業研指導演検討実施
- H 2 8 . 1 1** 統一授業研（授業実践）「球技(ゴール型)ハンドボール」
授業後研究会実施
- H 2 9 . 1 統一授業研反省
- H 2 9 . 3 平成 2 8 年度研究のまとめ
- H 2 9 . 4 平成 2 9 年度東山梨教協研究テーマの決定。「基礎基本の定着を目指した授業の改善・工夫」～主体的、対話的で深い学びを通して～
- H 2 9 . 5 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫の討議
- H 2 9 . 6 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫の討議
統一授業研実施内容の決定
- H 2 9 . 7 統一授業研指導演検討実施（ダンス）
- H 2 9 . 9 本レポートの検討、討議実施

○ レポート作成者・共同研究者について

レポート作成者

山梨市立山梨北中学校 教諭 金森 智絵

共同研究者

東山梨教育協議会中学校保健体育部会

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して基礎基本の定着を目指した授業の改善・工夫を行う
- (2) 「アクティブ・ラーニング」の視点から 授業改善の取組を活性化し、実践する。

2 研究の概要

- (1) 授業研究を通して、基礎基本の定着を目指した授業の改善・工夫について考える。
〔1 1月「球技」〔ハンドボール・ゴール型〕〕
- (2) 各校の授業実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究を行う。

3 授業実践

- (1) 単元名 「球技」(ハンドボール・ゴール型) 中学2年生

- (2) 指導構想

「ハンドボールの楽しさを味わい、確かな技能・知識の定着と
向上を目指す学習指導法の実践的研究」

- (3) 学習の道すじの工夫

- ・特性に応じた学習のねらいによる学習過程を構成する。
- ・現時点での力量に応じて運動を楽しみ、深めていくように学習指導を進めていく。

- (4) アクティブラーニングの視点からの取り組み

- ・ノート・カードを利用し、①自己課題を把握し、②自力解決への支援を行い③相互解決を図ることで学びあい、④振り返りと学習整理をさせる。
- ・作戦ボードや作戦ノートなどを利用し、作戦を共有しチーム課題の解決に向けて相互の話し合い活動を活発にする。

III 成果と課題

研究の成果

- 生徒の実態や学習の状況に応じて、学習過程の中に協同的な学習を取り入れたことで、生徒の学び合いが活発になり、学習への「楽しさ」を感じたり意欲的に学ぼうとする姿が見られるようになった。
- 個や集団に応じた手立てや学習支援を行ったことで、「わかった」「できた」という喜びを味わうことができ、生徒一人一人の学びが深まった。
- さまざまなコミュニケーションの基礎を培う活動を行ったことで、互いを尊重し、協力し合える関係づくりができたため、協同的な学習を円滑に進めることができ、学習効果も高まった。

今後の課題

- 協同的な学習の効果をさらにはげるとするには、確かな学力の一側面である表現力が不可

欠であり、そこに課題を残している。自分の考えや思いを表現する力を伸ばすことが重要である。

第2学年3・4組 保健体育科学習指導案

山梨市立山梨北中学校

授業者 教諭 金森 智絵

1 単元名 球技（ゴール型）「ハンドボール」

2 単元の目標

技能	○勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 ○ボールの操作と空間に走り込むなどの動きによって、ゴール前での攻防を展開できるようにする。
態度	○ハンドボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
知識、 思考判断	○ハンドボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

3 単元の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	ハンドボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう分担した役割を果たそうとすること、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保して学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ハンドボールの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身につけている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。

学習活動に即した評価規準	① 学習に積極的に取り組もうとしている。 ② フェアなプレーを大切にしようとしている。 ③ 分担した役割を果たそうとしている。 ④ 話し合いに貢献しようとしている。	① 自己やチームの課題を見つけることができる。 ② 仲間に対して、技術的な課題や練習方法の選択について指摘している。 ③ 共通理解を図るための適切な関わり方を見つけている。 ④ ボール操作やボールを持たない時の動きのポイントを見つけている。	① 相手の動きに応じた基本動作ができる。 ② 基本となる技能を使って練習や、ゲームができる。 ③ 仲間と連携した動きを身につけている。 ④ ボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防を展開できる	① ハンドボールの名称や特性、成り立ちについて学習した具体例を挙げている。 ② 技能の名称や戦術、作戦などがわかりそれぞれのポイントを言ったり書き出すことができる。 ③ 試合の行い方について学習した具体例を挙げている。
--------------	---	---	---	---

4 指導及び評価の計画（全10時間）

過程	ねらい・学習活動	評価規準（観点）				評価方法
		関	思	技	知	
第一次	1 オリエンテーション ○学習の見通しをもつ ・教師の話を聞いて単元全体の見通しを持つ ○学習の準備 ・学習カード ・グループ編成 ・グループノート ・資料の使い方の確認 ○体ほぐし（全身じゃんけん、あっちむいてほい、タッチ相撲、片足相撲、赤と	①			①	観察 学習カード グループノート

		白鬼ごっこ)					
第二次	2	○ボールハンドリング ・基礎ゲーム「四角鬼」 ○パス練習 ・ランニングパス (二人一組)	②	①			観察 学習カード グループノート
	3	○シュート練習 ・ステップシュート ・ジャンプシュート					
第三次	4	○攻防の練習(3人1組) ○5パス&ヒッティングゲーム	③	②	①	②	
	5	○速攻の練習 ・オールコート(正規の半分) ○5パス&ヒッティングゲーム			②		
第四次	6	○突破ゲーム			③		観察 学習カード グループノート
	7	(ボール有・無)			④		
	8	○タッチダウンゲーム ○オールアタックゲーム					
第五次	⑨ 本時 10	○ゲーム形式 (4対4)		④	④		

5 指導上の立場

単元観

(1) 一般的な特性

① 機能的特性

いろいろな方法のパスやドリブル、ダイナミックなシュートやコンビプレーで攻めたり、チームで組織された防衛で守ったりして技能と戦略的な部分の駆け引きをし、勝敗を争うところにある。そして、相手に合わせた作戦を立て、オフェンスやディフェンスを工夫し、スピーディーな試合展開が楽しめる。

② 構造的特性

ハンドボールは相対する2チームが、走・跳・投を中心とした動きの中でボールを運び合い、相手ゴールにシュートして得点を競い合う競技である。しかし攻防も激しく、展開もスピーディーなため、ディフェンスをかわすパスやステップが重要であり、連携プレーも重視される。また、簡単にシュートをさせないディフェンス技術にも工夫が要求される。

③ 効果的的特性

スピーディーな攻防が展開されるため、相手の動きに対応する能力が要求され、瞬発力や敏捷性、調整力、持久力が必要とされる競技である。

(2) 生徒から見た特性

ボールを片手で操作しやすく、またゴールも比較的大きいことから、シュートを決める楽しさがあり、スピーディーな攻防の試合展開のため、短時間での十分な運動量を確保できる。そして、体を動かした充実感を得られる。また、身につけた技能を用い、1対1で相手をかいたり、パスワークから得点をとる方法などに喜びを増すことができる。また、チームスポーツのため、互いに学び合い、励まし合うことに仲間との協力や一体感を得られる。しかし、展開が早いため、持久力や敏捷性など力に不安のある生徒には、意欲の面で差が出てしまうことが懸念される。

生徒の実態

2年3組男子16名、4組男子16名、合計32名である。明朗、快活な生徒が多くすべての授業に積極的に取り組む姿勢を持つ生徒が多い。32名中29名の生徒が運動部活動に所属しており、体育の授業にも積極的に取り組む姿が見られ、関心の高さがうかがえる。

ハンドボールについては、1年次に基礎的なことを学習してきているので、今回はタスクゲームを中心にすすめながら、よりスピーディーな攻防を展開できるようにするための授業を行っている。

教師の指導観

ハンドボールは、1年次に全員が経験しているため、基本的な動きについては理解

している。しかし、うまくボールを扱えない等、基本動作が身につけていない生徒も少なくない現状がある。段階練習の中で個人の基本的技能の習得ができるよう工夫をし、個人の技術の向上を目指したい。また、グループ活動を積極的に行いリーダーを中心に個人やグループの課題を見つけ、自分たちにあった作戦を、話し合いながら考える授業を展開していきたい。

6 本時の展開

(1) 日時 平成28年11月30日(水) 6校時

(2) 場所 体育館

(3) 目標 ・チームで作戦をたて試合に活かすことができる

・空間に仲間と連携して走り込み、ゴール前での攻防を展開できる。

(4) 本時の評価規準

・ボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防を展開できる(運動の技能)

・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけることができる(思考・判断)

(5) 展開

過程	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価方法及び評価基準
はじめ 10分	<p>1 集合・挨拶・健康観察</p> <p>(1) 各クラス2列縦隊で並ぶ</p> <p>(2) 挨拶・健康観察</p> <p>① 欠席者・体調不良者の確認</p> <p>安全指導</p> <p>2 ウォーミングアップ</p> <p>・各クラス2列縦隊</p> <p>(ランニング 準備運動・補強運動)</p> <p>3 前時の反省と本時のめあての確認</p> <p>・グループごと1列縦隊</p>	<p>○健康状態の把握、体調不良生徒への配慮</p> <p>○クラスごとランニング→準備運動→補強運動を行わせる</p> <p>○本時の流れを集中して聞かせる</p> <p>○各グループでリーダーを中心に本時の課題と今日の作戦を確認させる。</p>	<p>グループノート</p> <p>学習カード</p> <p>筆記用具</p> <p>ビブス</p> <p>作戦ボード</p> <p>評価:</p> <p>ボール操作やボールを持たないときの動きの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけることができる。</p>

<p>な か 40 分</p>	<p>4 ミニゲーム (ストリートハンドボール使用) 4対4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの入れ替えは自由 ・ドリブルなし、パスのみ <p>※作戦タイムを設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとの場所を明確にし、危険のないようにする。 ○4対4で7分間のミニゲームを実施させる。 ○作戦タイム時には、作戦ボードやノートを使い、チームの課題に応じた作戦を立てているか、確認する。 	<p>評価： ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できる</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>5 本時のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の確認 ・本時の学習内容の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人反省を学習カード、グループの反省をグループノートに記入する。 ○話し合い中に巡回をし、どのような話し合いができてきているか確認する。 ○良い助言をしている生徒、またその助言によって上達した生徒を賞賛する。 ○正しい姿勢で大きな声で挨拶をする。 ○協力して片付けさせる。 	<p>作戦ボード グループノート 学習カード</p>